

東京電機大学 情報環境学部

# 情報数学 III 「空間の線形変換」

補助教材：*Mathematica* ノートブック

`im3-2-lintransR3.nb`

平成 23 年 10 月 21 日 (金)

担当：佐藤 弘康

# *Mathematica* におけるグラフィックス表現

## プロットコマンド

- 陽関数表示

`Plot3D[f(x,y), {x, xmin, xmax}, {y, ymin, ymax}]`

- 媒介変数表示

`ParametricPlot3D[{x(t,s), y(t,s), z(t,s)}, {t, tmin, tmax},  
{s, smin, smax}]`

- 陰関数表示

`ContourPlot3D[f(x,y,z)==0, {x, xmin, xmax}, {y, ymin, ymax},  
{z, zmin, zmax}]`

# Mathematica におけるグラフィックス表現

## グラフィックスプリミティブ

- 点を打つ：`Point` [ $\{x, y, z\}$ ]
- 点を線分で結ぶ（終点を矢印にする場合は `Arrow`）：  
`Line` [ $\{\{x_1, y_1, z_1\}, \{x_2, y_2, z_2\}, \dots\}$ ]
- 与えられた点を頂点とする多角形：  
`Polygon` [ $\{\{x_1, y_1, z_1\}, \{x_2, y_2, z_2\}, \dots\}$ ]
- 対角座標で決まる直方体  
`Cuboid` [ $\{\{x_{min}, y_{min}, z_{min}\}, \{x_{max}, y_{max}, z_{max}\}\}$ ]
- 球面：`Sphere` [ $r, \{x, y, z\}$ ]
- テキストを配置する：`Text` [文字列,  $x, y, z$ ]
-

# Mathematica におけるグラフィックス表現

- グラフィックスプリミティブを描画するには,

`Graphics3D[graphicsprimitive]`

- 複数個の場合は {} で囲んでコンマで区切る；

`Graphics3D[{graphicsprimitive1, graphicsprimitive2, ...}]`

- プロットコマンドで描画するものも合わせて、複数個のグラフィックスを表示するためには,

```
Show[{  
  Plot3D[...],  
  Graphics3D[...],  
  ⋮  
}]
```

# *Mathematica* におけるグラフィックス表現

---

- プロットコマンド, グラフィックスプリミティブともに各種オプションあり.
  - 描画範囲, グラフィックスの比率など
  - 座標軸, ボックスを描くか, 否か
  - 色, 太さ, 透明度など
- 詳細は *Mathematica* のメニュー  
「ヘルプ」 → 「ドキュメントセンター」 で検索せよ.

# 拡大・縮小

---

## 拡大・縮小

$$\begin{pmatrix} k_1 & 0 & 0 \\ 0 & k_2 & 0 \\ 0 & 0 & k_3 \end{pmatrix}.$$

- $|k_1| > 1$  (または  $0 < |k_1| < 1$ ) のとき,  $x$  軸方向に拡大 (縮小).
- $|k_2| > 1$  (または  $0 < |k_2| < 1$ ) のとき,  $y$  軸方向に拡大 (縮小).
- $|k_3| > 1$  (または  $0 < |k_3| < 1$ ) のとき,  $z$  軸方向に拡大 (縮小).

# せん断

せん断

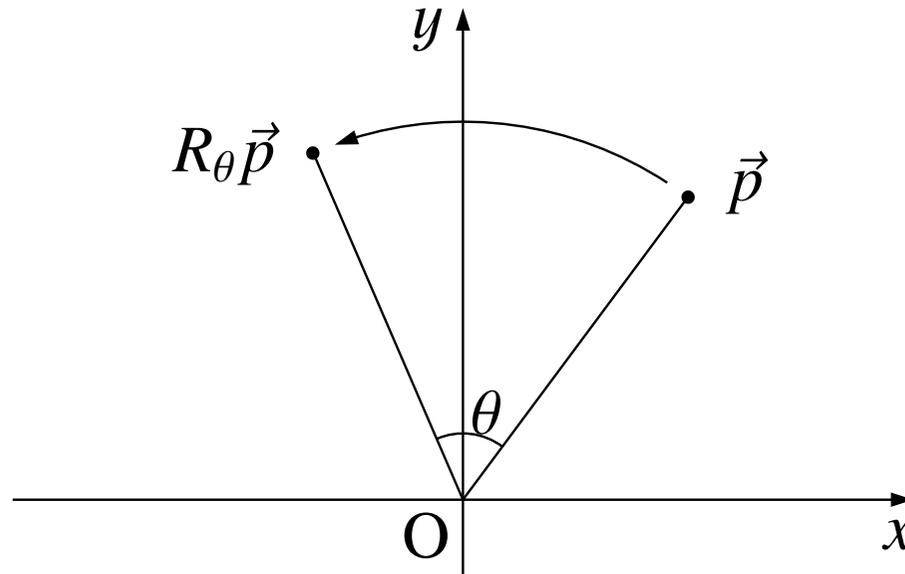
$$\begin{pmatrix} 1 & k & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & k \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & k \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix},$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ k & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ k & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & k & 1 \end{pmatrix}.$$

# 回転：復習（平面内の回転変換）

原点を中心とする平面  $\theta$ -回転

$$R_\theta = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}.$$



- 平面における回転変換は点があれば定義できる.
- しかし、空間内の回転は直線（**回転軸**）がないと定義できない.

# 回転 (1)

$z$  軸を回転軸とする  $\theta$ -回転

$$R_{z(\theta)} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

•  $R_{z(\theta)}$  は  $\left( \begin{array}{cc|c} R_\theta & & 0 \\ \hline & & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{array} \right)$  とブロック分割できる.

• つまり,  $\vec{p} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  に対して  $R_{z(\theta)}$  が定める線形変換は,  $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$  には  $\theta$ -回

転として作用し,  $z$ -成分は不変にする.

## 回転 (2)

---

$x$  軸を回転軸とする  $\theta$ -回転

$$R_{x(\theta)} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & \cos \theta & -\sin \theta \\ 0 & \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

$y$  軸を回転軸とする  $\theta$ -回転

$$R_{y(\theta)} = \begin{pmatrix} -\sin \theta & 0 & \cos \theta \\ 0 & 1 & 0 \\ \cos \theta & 0 & \sin \theta \end{pmatrix}$$

# 回転 (3)

原点を通る一般の直線を回転軸とする  $\theta$ -回転  $R_{(a,b,c);\theta}$

直線の方法ベクトルを  $\vec{v} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$  とする (ただし,  $|\vec{v}| = 1$ ) と,

$R_{(a,b,c);\theta}$

$$= \begin{pmatrix} \cos \theta + (1 - \cos \theta)a^2 & (1 - \cos \theta)ab - c \sin \theta & (1 - \cos \theta)ca + b \sin \theta \\ (1 - \cos \theta)ab + c \sin \theta & \cos \theta + (1 - \cos \theta)b^2 & (1 - \cos \theta)bc - a \sin \theta \\ (1 - \cos \theta)ca - b \sin \theta & (1 - \cos \theta)bc + a \sin \theta & \cos \theta + (1 - \cos \theta)c^2 \end{pmatrix}$$

(性質)

$$R_{x(\theta)} = R_{(1,0,0);\theta} = R_{(-1,0,0);-\theta},$$

$$R_{y(\theta)} = R_{(0,1,0);\theta} = R_{(0,-1,0);-\theta},$$

$$R_{z(\theta)} = R_{(0,0,1);\theta} = R_{(0,0,-1);-\theta}.$$

# 鏡映

原点を通る平面  $\pi$  に関する鏡映

$$S_{(a,b,c)} = \begin{pmatrix} 1 - 2a^2 & -2ab & -2ac \\ -2ab & 1 - 2b^2 & -2bc \\ -2ac & -2bc & 1 - 2c^2 \end{pmatrix}$$

